

令和7年度 八王子市立別所小学校 学校経営計画

校長 川村 守

1 目指す学校像・子ども像・教師像

今年度のグランドデザイン

《学校像》

地域運営学校として、学校・保護者・地域の連携を深め、地域とともにある学校づくりを目指す
小中一貫校として、秋葉台小学校・別所中学校と共に9年間を見通した子どもたちの育成を目指す

～ 自己実現に向けて ～ チャレンジを大切にする学校

子どもたちが「なりたい自分」に向けた挑戦をしていくなかで、自己実現に近づけた喜びを感じることができる **well-being** な学び舎にしていく。また、ふるさと意識の醸成をさらに高めていく。

《子ども像》

将来を担う人材として、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもを育成する

学校教育目標

◎は重点目標

◎心をみがきます（徳）

勇気と思いやりのある子ども

- ・「なりたい自分」に向けて自己肯定感と自律心を高めることができる
- ・挑戦意欲とレジリエンスをセットで大切にできる
- ・他者への感謝と自分が役立つ喜びがもてる
- ・郷土愛を高めることができる

自分をのびします（知）

自分から進んで学ぶ子ども

- ・自ら進んで学習し、学ぶ喜びを感じながら自分を高めることができる
- ・自分の考えをもち、他者と相互に学び合い、練り上げた考えを表現することができる
- ・基礎基本内容を使って、課題解決に取り組むことができる

元気にすごします（体）

体をきたえる子ども

- ・自分と向き合い、自分の心身への気づきをもち、元気に前向きに過ごすことができる
- ・集団活動を通して、進んで運動に親しむことができる
- ・安全衛生（特にコロナ対策）や食事に関心をもち、健康な生活に向けて自分から実践できる

《教師像》

- 教育公務員としての責任と自覚をもち、子ども・保護者・地域から信頼される教師
- 自己研鑽に励み、児童理解に基づいた指導により、子どもの成長を引き出すことのできる教師
- ◎教育課題の解決に向け、ONE TEAM の意識をもち、連携しながら組織的に対応ができる教師

ONE TEAM の合言葉

- ① 「健康・安全・人権なくして教育なし」。一枚岩のリスクマネジメントができる組織
- ② 「教師がもえれば子どもがもえる、子どもがもえれば学校がもえる」。熱意のある組織
- ③ 「3つのワーク(ネットワーク・フットワーク・チームワーク)を大事に」。機動力のある組織。

2 中期的な目標と方策(◎:今年度の重点と方策)

(1) 豊かな人間性の醸成……特に、いじめの対応を通して子どもの人間愛・人間力を高める

人権尊重の理念のもと、子どもたちが自己実現に向けて、自らを律しつつ自己を確立したり、他人を思いやりながら共に協調したりするなかで、自己理解を深め、豊かな人間性や社会性をはぐくんでいく。

◎自分とともに他人を尊重する態度の育成

- ➡全教育活動における人権感覚の向上（言語環境整備・暴力・体罰根絶）、道徳教育の充実（道徳授業地区公開講座による家庭・地域との連携）、縦割班による異学年交流、各学級におけるよいところ応援計画と学級会の充実、いじめの早期発見や早期解決のための取組強化（アンケート実施・Q-U テストの活用・いじめ対策委員会を毎週開催して情報共有を徹底）、教育相談の充実（SC や外部機関との連携）、仲良し集会による異学年交流

○社会人となる基礎(規範意識・あいさつ・礼儀・自立)の育成

- ➡挨拶運動によるコミュニケーション力の向上（生活指導の重点、児童会の取組、各学年適時、青少対連携等）、廊下歩行を重点にした規範意識の醸成、靴をそろえる取組による自分と向き合う場面設定、教師集団の一枚岩の指導と率先垂範によるモデル形成、毎月の生活目標の設定、特別活動による学校生活向上の取組、ESD の視点に立った能力・態度の育成と SDG s への行動力を向上させる授業、令和3年度の周年企画の際に子どもたちが考えた SBG s（持続可能な別所小学校にするための13の目標）の継続的な取組



(2) 確かな学力の向上……特に、GIGA(一人一台端末)の活用で子どもの学習デザインを広げる

知識・技能の確実な習得と活用する力を高めるとともに、問題解決的な学習により、思考力・判断力・表現力の育成を図る。また、自ら学びに向かう力と人間性を涵養し、確かな学力を身につけさせる。

◎主体的・協働的に学習に取り組む態度と問題解決的な学習の展開

- ➡ GIGA の端末活用による個別最適化した学習環境の構築、発問の工夫や学習計画のある学習過程、特別活動と連携した「話し合い活動→学び合い活動」の土壌作り、疑問から学習問題を設定して「しっかり調べて、じっくり考え、わかりやすく伝える」学習プロセスの習得、ESD の視点に立った授業、校内研究や校内 OJT による授業力向上

○基礎学力の定着に向けた取組の強化

- ➡ GIGA の端末活用によるデジタル教材の活用、指導方法工夫改善の習熟度別少人数授業（算数）、朝学習と補習（年間 10 コマ）を実施、夏季補習（全学年 2 日間）、夏季学習教室（学運協との連携）、家庭と連携した家庭学習の定着、読書活動、放課後子ども教室での補習（地域学校協働活動推進委員の活用）、東京都ベーシックドリル・八王子市ベーシックドリル、八王子市習得目標問題確認テスト類似問題の活用

(3) 特別支援教育の充実……特に、特別支援校内委員会を軸にした連携の強化をさらに高める

子ども一人一人の特性に応じた支援や教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行っていく。

◎特別支援教育に関わる体制の強化

- ➡ 特別支援コーディネーターの複数配置（通担・固担・養）、特支チームの連携強化（コーディネィ・専門員・SC・巡回心理士・サポーター等）、外部機関との連携（SSW・教育センター・医療機関等）、校内委員会による情報共有、保護者との連携、スムーズな引継体制（はちおうじっ子マイファイルの活用等）、生活指導との連携強化

○みずき学級やおおぞら学級と連携したインクルーシブ教育の実践

- ➡ みずき学級の巡回指導教員と連携強化（特別支援専門員・在籍級担任・保護者）、特別支援学級指導補助員によるおおぞら学級での個別対応の更なる強化、通常学級との計画的な交流や共同学習の充実、地域素材の教材化やフィールドワークの充実

(4) 健やかな心と体の育成と安全な学習環境の整備……特に熱中症への対応を強化

自分の身体や心の状態への関心を高めるとともに、健康・運動への意欲や安全に生活する能力を身につけさせる。そして、生涯にわたって健康増進に努め、前向きに生きる姿勢を醸成する。また、学校を安全で安心な学習環境にするために、一人一人の意識改革と危機管理体制を再整備する。

◎安全点検・安全指導の徹底と危機管理体制の再整備

- ➡ 近年ハイリスクの熱中症への危機管理と対応強化の徹底（WBGT 測定・週案簿への安全配慮記載・判断基準徹底・対応法研修の実施）、怪我防止の徹底（週案記載・安全指導）、怪我発生時の迅速・丁寧な対応（保護者連絡・救急対応）、施設点検による危険箇所の発見とヒヤリハットの共有（安全点検月 1 回）、教員の危機管理意識の向上（安全プログラム活用と職朝での確認）、交通安全教室、セーフティ教室、食物アレルギーチェック体制強化、災害対応の強化（避難訓練・図上訓練・防災課や町会との連携等）

○東京オリンピック・パラリンピックのレガシー、体力や運動技術の向上、国際理解を深める取組の推進

- ➡ 東京オリンピック・パラリンピック教育のレガシー化と 2024 パリオリンピックの活用（スポーツへの関心と国際理解の促進）、体力テストの実施と結果の活用、感染対策と水泳指導の両立、体育的集会活動（大縄・短縄・持久走等）

(5) 家庭・地域との連携、開かれた学校づくり……特に、ふるさと意識を高める

地域運営学校として、保護者、地域、学校運営協議会委員との連携を深めながら、地域に根ざした学校作りを進める。そして、地域の強みを学校の強みにしていく。また保幼連携・小中一貫を推進する。

◎保・幼・小・中の15年間を見通した一貫教育の充実

- ➡ 近隣の保育園・幼稚園と連携して小1プロブレム等に対応、秋葉台小学校と別所中学校と連携した小中一貫教育の推進（教員交流年3回・児童生徒間交流3回、ふるさと学習の検討）、丁寧な引継による不登校や配慮を要する子どもへの対応、指導資料の活用

○保護者・地域への積極的な情報発信と学校評価の活用

- ➡ 来校の機会設定（学校公開・行事・保護者会・個人面談等）、学級便り・学年便りの発行（月1回以上）、学校ホームページの更新（各学年週1回以上）、一斉メールシステムによる情報発信、正門掲示板を活用した地域への情報発信、学校運営協議会の定期的な開催、学校評価の活用

○子どもたちのふるさと意識を更に醸成するために、家庭・地域との連携強化

- ➡ 学校運営協議会・別所町会・別所会等と連携したふるさと企画運営、地域の古老や伝統文化保存会などの地域の人材を活用した授業、文化財埋蔵センター・八王子市郷土資料館など外部機関と連携した地域素材の教材化への取組、地域学校協働推進委員を活用した地域のボランティアとの連携（栽培・放課後子ども教室等）、校内研究における地域素材（八王子・別所）を教材化したふるさと学習の授業開発、健全育成活動の連携（挨拶運動、クリーン作戦など）

(6) 学校組織の機能強化……特に、集団の組織力向上と個々の“強み”作りでマンパワーを強化する

一人一人が自分の強み（専門性や能力等）を発揮しながら、メンバーと連携・協働できるチームをさらに目指すことで、複雑化・多様化する課題に対応できる高い組織力を構築していく。

◎情報共有の徹底と指示系統・合意形成の確立による組織的対応力の強化と人材育成

- ➡ 3つのワークを合言葉（ネットワーク・フットワーク・チームワーク）、「報連相いち記」による情報共有の徹底、C4thの活用、各主任や各職層による指示系統の確立、役割に責任をもつ起案システム、組織の再編、各種会議による合意形成、調整会による組織力強化、学校経営支援部の設置による学校事務の効率化、ミドルリーダーの主任教諭と主幹教諭の連携、学年を中心とした横のラインと主任・主幹を中心とした縦のラインの人材育成、若手OJTの推進

○服務事故の防止に努め、子供・保護者・地域からの信頼を向上

- ➡ サービス事故防止研修の実施による意識の向上（学期に1回）、都教委サービス情報の共有、学年間や各担当者からの日常的な注意喚起、自己申告面談における意識の共有化

○働き方の改革の推進による「組織の健康」を向上

- ➡ 出退勤システムによるタイムマネジメント向上、SSSの支援による業務軽減、健康診断などによる健康管理、学年間で業務分担や協働作業など効率化、専科や事務室と担任との連携、先を見通した計画的なスケジュール管理、業務の軽重化と行事等の精選

3 イメージ図(概要)

